

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、水産海洋技術センターからの情報を、漁業者や県民の方々にお知らせする情報誌です。

VOL.77

発行/令和7年2月



福岡有明のり

Fukuoka Ariake Nori

「福岡有明のり」新ロゴマーク

調査・研究情報

- 藻場保全のために除去したウニの養殖を推進…………… 2
- トピック 福岡県ブルーカーボン推進協議会を設立…………… 2
- 「福岡有明あさり」の漁獲安定を目指して…………… 3
- 投石と母藻投入によるアカモク藻場造成手法の開発…………… 3
- エツ資源増大の取組（種苗生産省力化技術の開発）…………… 4

普及だより

- 「福岡有明のり」の新ロゴマークを発表…………… 4
- 農林水産まつりで漁業のVR体験等を実施…………… 4

福岡県水産海洋技術センター

〒819-0165 福岡市西区今津 1141 番地 1

TEL:092-806-5251 FAX:092-806-5223

センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>

調査・研究情報

藻場保全のために除去したウニの養殖を推進

筑前海では、ウニの食害により一部の藻場が減少していますが、このウニを除去することで、「①藻場が回復し、水産資源の育成につながる」、「②増えた海藻が吸収・固定した CO₂ をブルーカーボンとしてクレジット化し、得られた資金を藻場保全活動に活用できる」、「③除去したウニを、地元野菜等を餌にして養殖し、商品化することができる」と一石三鳥のメリットが期待されます。

除去したムラサキウニは、漁港に簡易な筏を設置し、育成カゴ（80 cm×50 cm×40 cm）にウニを80 個ずつ収容し、筏に垂下します。農家から提供を受けた地元産野菜や塩ワカメ等の端材を3日に1回しっかりと給餌することで、3～4ヶ月間で身入りを回復させることができます。

現在、筑前海沿岸の7地先全体で、約1万個のウニを取り上げ、海上養殖を実施しています。

（水産海洋技術センター浅海増殖課）



漁業者が製作したウニ養殖筏



ウニを収容した育成カゴ

トピック

福岡県ブルーカーボン推進協議会を設立

福岡県では、平成22年度より、北九州から糸島に至る筑前海の20地先で、沿海市町と共に、ウニ除去や母藻投入等の漁業者が取り組む藻場保全活動に対して支援を行ってきました。

現在は、藻場保全活動に加え、除去したウニに地元産野菜等を餌として与えて養殖し、商品化する取組や、ブルーカーボンのクレジット化も進めています。

ブルーカーボン創出の取組を幅広い分野の皆様と協働できるよう、令和6年4月に設立したのが「福岡県ブルーカーボン推進協議会」です。

漁業関係者や九州大学、藻場保全活動に関心のある地元企業、筑前海沿岸の8市町等に参画いただいております。産学官が連携してブルーカーボン創出を推進していきます。

（水産海洋技術センター企画経営課）



第1回協議会の様子

「福岡有明あさり」の漁獲安定を目指して

福岡県では、有明海のアサリ資源を増やし、持続的に漁獲が可能となることを目指し、覆砂による生息環境の改善のほか、漁業者と連携して、稚貝の成長と生残を高めるための移植放流や産卵する親貝を保護するための砂利袋の設置、資源を維持するための禁漁区・休漁日の設定等の様々な取組を行っています。

そのかいあって、令和6年度には成長したアサリが広範囲にみられ、令和元年以来、5年ぶりにまとまった漁獲がみられました。今後も安定してアサリが獲れるよう、資源管理の取組を続けていきます。

また、県と有明漁連、民間企業が協力し、消費者が信頼して購入できるよう、漁獲から加工・流通販売までの流通履歴を確認できるアサリを「福岡有明あさり」と命名し、認知度向上と販売促進に取り組んでいます。



アサリ漁の様子



福岡有明あさり

(有明海研究所資源増殖課)

投石と母藻投入によるアカモク藻場造成手法の開発

アカモクは、健康志向の高まりから、需要が増えている海藻です。福岡県内では筑前海で先行して利用加工され、その後、豊前海でも加工が行われるようになりました。今では、豊前海区の道の駅や直売所等でも販売されており、人気商品の1つとなっています。

加工するアカモクは天然資源を利用していますが、豊前海にはアカモクの生育適地である浅場の岩礁域が少ないため、今後の漁獲状況によって、資源が減少することが懸念されます。そこで、アカモク資源を増やすため、投石により新たな漁場をつくり、そこにアカモクの母藻を投入することでアカモクが繁茂するか、検証しました。

検証の結果、太陽光が海底まで差し込む比較的明るい2m程度の水深であれば、投石と母藻投入で、アカモクが繁茂することが分かりました。また、漁港内よりも潮通しのよい漁港外の方が、効果的にアカモクが繁茂することも分かりました。今後も、アカモク資源を増やし、生産量の増大につなげていきます。



(豊前海研究所浅海増殖課)

投石漁場に繁茂したアカモク

エツ資源増大の取組～種苗生産省力化技術の開発～

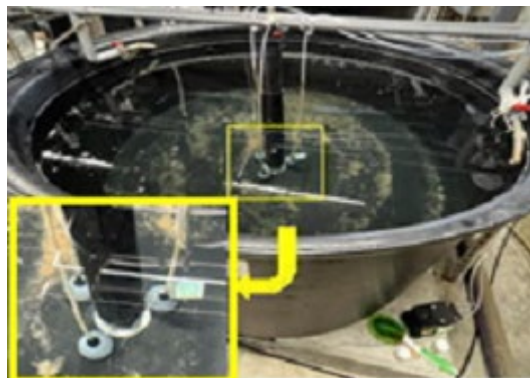
エツは有明海湾奥部とその河川に生息し、筑後川では夏の風物詩として親しまれる魚です。下筑後川漁協では平成11年から資源増殖のため、放流用種苗を生産しています。

エツの種苗生産では生きた餌料を使用し、ふ化後はワムシを、体長1cm程度になるとアルテミアを与えます。これらを朝夕2回給餌する作業は漁業者の大きな負担となっています。そこで、冷凍ワムシや冷凍アルテミア、配合餌料を使用した給餌作業の省力化に取り組んでいます。

冷凍餌料や配合餌料は生きた餌料に比べて早く沈降することがわかり、改善する攪拌装置を試作したところ、生残率が大幅に向上しました。

今後も改良を加え、良質な種苗を安定して生産できる技術を開発していきます。

(内水面研究所)



攪拌装置で改善した飼育水槽

普及だより

「福岡有明のり」の新ロゴマークを発表

福岡県では、福岡有明海漁業協同組合連合会と連携し、高級海苔として香り豊かで口どけの良さが特長の「福岡有明のり」のブランド化に取り組んでおり、11月11日に新たなロゴマークを発表しました。(表紙参照)

今後、この新しいロゴマークを活用し、「福岡有明のり」に関わる生産者や商社、関係団体の方々と一体となって、日本一のブランドを目指します。

新ロゴマーク のコンセプト

- ・黒の正方形が「福岡有明のり」を表現
- ・四角が規則的に並ぶ様子が養殖網を、金色の縦ラインは、養殖用支柱をイメージ



新ロゴマーク発表会

(有明海研究所のり養殖課)

農林水産まつりで漁業のVR体験等を実施

福岡県では11月2日から3日にかけて、「農林水産まつり」を開催しました。

水産ブースでは、県民の皆様に、水産業についての理解を深めてもらうため、タッチングプールやウニ割体験、スマート漁業の紹介のほか、VRゴーグルを使ってカキ・ノリ養殖の疑似体験も行いました。参加者からは、「福岡県の水産業について楽しく学べて、とても勉強になった。」などの声が聞かれ、好評でした。



(水産海洋技術センター企画経営課) VRゴーグルで疑似体験をする来場者